

専任教員の教育・研究業績

所属 スポーツ科学部	職名 准教授	氏名 生田 秀和	大学院における研究 指導担当資格の有無	無		
<b>I 教育活動</b>						
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
全日本柔道連盟強化委員会委員・男子ジュニアコーチ	平成25年12月～令和3年9月	日本のトップレベルの男子柔道選手(14歳以上21歳未満)を対象に、将来の世界選手権、オリンピックの代表候補として、技術・体力・知識の向上を目的とし強化育成をする。				
日本オリンピック委員会強化スタッフコーチング・マネジメントスタッフ(柔道)	平成26年4月～	オリンピック強化指定選手に強化活動に必要な助言、指導を与えるためのコーチングスタッフ、マネジメントスタッフ。				
全日本柔道連盟・女子シニアコーチ	令和3年9月～	日本のトップレベルの女子柔道選手(世界選手権、オリンピック代表選手)を対象に強化し、金メダル獲得を目指す。				
<b>II 研究活動</b>						
著書(単著)						
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月	
著書(共著・分担執筆)						
題目/書名	著者/編者	初(始)頁～終頁	発行所	発行地	発行年月	
原著論文(審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)						
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月	
ルール変更に伴う競技内容の分析・全日本柔道選手権大会・皇后杯全日本女子柔道選手権大会(2010・2011年大会)を対象として	◎坂本道人、前川直也、小澤雄二、佐藤伸一郎、横山喬之、中村勇、石井孝法、石川美久、生田秀和、他	福岡大学スポーツ科学研究	47(2)	1頁～10頁	平成29年3月	
フィットネスクラブにおける低頻度のパーソナルトレーニングがチェストプレスおよびレッグプレスの拳上重量に及ぼす影響	◎山本貴大、久保田浩史、滝優里花、山本浩貴、松本香奈、石川美久、横山喬之、生田秀和	教育医学	63(3)	280頁～285頁	平成30年2月	
中学校・高校の保健体育科教員を養成する大学における柔道授業の在り方についての提言	◎林 弘典、黒澤寛己、坂本道人、生田秀和、石川美久	びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要	18	25頁～35頁	令和3年3月	
今後の中学生・高校生における柔道授業の検討 : 中学校・高校の柔道授業を経験した大学生における男女別の比較	◎林 弘典、石川美久、生田秀和	びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要	19	9頁～17頁	令和4年3月	
Effects of unexpectedness on the risk of head injuries in judo novices and experts.	◎Hayashi, H., Anata, K., Ishikawa, Y., Shoda, H.	Journal of Physical Education and Sport.	23(2)	342-348	令和5年2月	
不意な状態における傾斜角度のある後ろ受け身が柔道初心者の頭部角速度と恐怖度に及ぼす影響と指導基準の検討	◎生田秀和、石川美久、林 弘典、	関西武学道研究	33(1)	1頁～11頁	令和6年3月	
総説						
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月	
その他 (「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入)						
区分	題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
研究ノート	中学校・高校の柔道授業における学習者の経験した指導内容について	共 ◎生田秀和、石川美久、林 弘典	関西武学道研究	30(1)	13頁～20頁	令和3年3月
研究ノート	中学校・高校の柔道授業の提案に対する学習者の考えについて	共 ◎林 弘典、石川美久、田中 勤、生田秀和	関西武学道研究	30(1)	3頁～12頁	令和3年3月

研究ノート	「柔道MIND」活動に関する意識調査-指導者を対象として-	共	◎田中 勤、石川美久、横山喬之、正木嘉美、生田秀和、林 弘典	関西武道学研究	30 (1)	21頁～27頁	令和3年3月
研究資料	国際柔道連盟試合審判規定導入前の全日本柔道選手権大会における大学生柔道選手のイメージに関する研究	共	◎生田秀和、石川美久、横山喬之、林 弘典	関西武道学研究	31 (1)	9頁～18頁	令和4年3月
研究資料	国際柔道連盟試合審判規定導入前の全日本柔道選手権大会における出場者の考え：無差別の試合形式と全日本柔道選手権大会について	共	◎生田秀和、石川美久、林 弘典	関西武道学研究	31 (1)	19頁～32頁	令和4年3月
研究資料	柔道MINDの理解度と能力向上に関する調査：中学生を対象にして	共	◎田中 勤、横山喬之、石川美久、生田秀和、林 弘典	関西武道学研究	31 (1)	1頁～8頁	令和4年3月
研究資料	今後の中学校・高校における柔道授業の検討：柔道授業の経験の有無による比較	共	林 弘典、石川美久、生田秀和	びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要	第19号	99-106	令和4年3月
研究資料	保健体育科教員を養成する大学の柔道授業に対する提案（3）：大外刈り・絞め技・関節技・試合の指導	共	林 弘典、石川美久、生田秀和	びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要	第19号	77-86	令和4年3月
研究資料	保健体育科教員を養成する大学の柔道授業に対する提案（1）：授業環境・状況、礼法、柔道衣、受け身、教員と学生に求められる能力	共	林 弘典、石川美久、生田秀和	びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要	第19号	53-66	令和4年3月
研究資料	大学におけるアクティブ・ラーニングの研究に対する提言	共	林 弘典、石川美久、生田秀和	びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要	第19号	45-52	令和4年3月
研究資料	日本における柔道の審判方法に対する提言：副審の位置と試合撮影に用いるビデオカメラの設置方法について	共	林 弘典、石川美久、生田秀和	武道学研究	55 (1)	27-37	令和4年3月
研究資料	柔道の授業における絞め技の教育効果に関する研究	共	林 弘典、石川美久、生田秀和	講道館柔道科学研究会紀要	第19輯	91-100	令和4年3月

学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等）」、「研究会」等区分を記入）

区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名
国内（一般演題）	平成28年9月	日本武道学会	全日本柔道選手権大会に対する大学生柔道選手の意識に関する研究	皇學館大學	生田秀和
国内（一般演題）	平成28年9月	日本武道学会	柔道形の指導に関する研究一投の形の手技を対象に一	皇學館大學	坂本道人
国内（一般演題）	平成28年9月	日本武道学会	高校女子柔道選手の指導状況について	皇學館大學	林 弘典
国内（一般演題）	平成29年9月	日本武道学会	Perspective on coaches who have competed in All-Japan Judo Championship: An interview survey	関西大学	生田秀和
国内（一般演題）	平成29年9月	日本武道学会	Influence of the weight difference in the throwing technique of judo to the head of Uke	関西大学	石川義久
国内（一般演題）	平成29年9月	日本武道学会	A study of teaching method for judo-kata: Koshi-waza of nage-no-kata	関西大学	坂本道人
国内（一般演題）	平成29年9月	日本武道学会	Coaching demands of high school girl judo athletes	関西大学	林 弘典
国内（一般演題）	平成30年9月	日本武道学会	柔道の投げ技における初心者と熟練者の頭	東京学芸大学	石川美久
国内（一般演題）	平成30年9月	日本武道学会	高校女子柔道選手の指導者に対する考え方について	東京学芸大学	林弘典
国内（一般演題）	平成30年9月	日本武道学会	投の形の学習過程における感覚変容（その1）-インタビュー調査から-	東京学芸大学	坂本道人
国内（一般演題）	平成30年9月	日本武道学会	柔道の研究動向の変遷に関する一考察「講道館柔道科学研究会紀要」を中心に	東京学芸大学	桐生習作
国内（一般演題）	令和1年9月	日本武道学会	柔道の投げ技における頭部打撲に関する実態調査	國學院大學	生田秀和
国内（一般演題）	令和2年9月	日本武道学会	柔道の太外刈りによる頭部外傷に対するマウスガードの装着効果	桐蔭横浜大学（オンライン開催）	生田秀和
国内（一般演題）	令和2年9月	日本武道学会	柔道の初心者と熟練者の後ろ受け身における頭部角加速度の比較	桐蔭横浜大学（オンライン開催）	林 弘典

国内(一般演題)	令和3年9月	日本武道学会	柔道の大外刈りにおける体重差が受けの頭部角加速度に与える影響	オンライン開催	石川美久
国内(一般演題)	令和5年9月	日本武道学会	柔道初心者の頭部外傷を予防する後ろ受け身の効果的な指導法の検討	大阪教育大学	生田秀和
国内(一般演題)	令和5年9月	日本武道学会	柔道の頭部外傷を予防する大外刈りに代わる大外落の検討	大阪教育大学	林 弘典

科学研究費等の取得状況

科学研究費/その他の助成金/外部資金

区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額(期間内の総額)

特許

特許名称	発明者/出願人	出願日/出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国

### Ⅲ 加入学会および社会における活動

期 間	内 容
加入学会	
平成22年4月～	日本武道学会会員
令和5年6月～	日本体育・スポーツ・健康学会会員
社会的活動	
平成25年12月～令和3年9月	全日本柔道連盟強化委員会委員・男子ジュニアコーチ
平成26年4月～	日本オリンピック委員会強化スタッフコーチング・マネジメントスタッフ(柔道)
令和3年10月～	全日本柔道連盟・女子シニアコーチ

### Ⅳ 管理活動

期 間	内 容
委員会活動	
特別プロジェクト活動	

### Ⅴ クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	柔道(男子)	部	2. 役職	2019～男子監督	3. 部員数	31 人
4. 現場指導の頻度	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない					
5. 合宿指導	年間合宿回数:	2 回	延べ日数:	10 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	① ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
8. 部員の就職指導への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所			
	大阪府ジュニア柔道体重選手権大会	5月上旬	堺市立大浜体育館			
	関西学生柔道優勝大会	5月下旬	ベイコム総合体育館			
	全日本学生柔道優勝大会	6月下旬	日本武道館			
	近畿ジュニア柔道体重別選手権大会	7月上旬	兵庫県立武道館			
	関西学生柔道体重別選手権大会	8月上旬	奈良県立五條市上野公園総合体育館			
	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	9月中旬	埼玉県立武道館			
	全日本学生柔道体重別選手権大会	9月下旬	秋田県立武道館			
	全日本学生柔道体重別団体優勝大会	10月上旬	ベイコム総合体育館			
	講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	11月上旬	千葉ポートアリーナ			
	大阪学生柔道体重別大会	12月上旬	吹田市武道館			
	大阪府柔道選手権大会兼全日本柔道選手権大会府予選会	1月下旬	修道館			
	近畿柔道選手権大会(全日本近畿予選)	3月上旬	各県持ち回り			

10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開催期間	大会名	成績	場所

VI 賞罰（職務に関する賞罰）

年月	受賞等機関名	内容	備考
平成27年7月	文部科学省	文部科学大臣賞	この表彰は、世界的規模のスポーツの競技会において特に優秀な成績を収めた者、指導に特に貢献があったと認められる者に対して文部科学大臣が表彰を行い、その栄誉を讃えることを目的とする（2014年フットローダーデール世界ジュニア柔道選手権大会）。
平成28年6月	文部科学省	文部科学大臣賞	この表彰は、世界的規模のスポーツの競技会において特に優秀な成績を収めた者、指導に特に貢献があったと認められる者に対して文部科学大臣が表彰を行い、その栄誉を讃えることを目的とする（2015年アブダビ世界ジュニア柔道選手権大会）。
平成30年7月	文部科学省	文部科学大臣賞	この表彰は、世界的規模のスポーツの競技会において特に優秀な成績を収めた者、指導に特に貢献があったと認められる者に対して文部科学大臣が表彰を行い、その栄誉を讃えることを目的とする（ユニバーシアード競技大会：柔道競技）。
令和1年7月	文部科学省	文部科学大臣賞	この表彰は、世界的規模のスポーツの競技会において特に優秀な成績を収めた者、指導に特に貢献があったと認められる者に対して文部科学大臣が表彰を行い、その栄誉を讃えることを目的とする（第18回アジア競技大会：柔道競技）。
令和2年7月	文部科学省	文部科学大臣賞	この表彰は、世界的規模のスポーツの競技会において特に優秀な成績を収めた者、指導に特に貢献があったと認められる者に対して文部科学大臣が表彰を行い、その栄誉を讃えることを目的とする（2019年世界ジュニア柔道選手権大会）。
令和5年8月	文部科学省	文部科学大臣賞 顕彰	この表彰は、世界的規模のスポーツの競技会において特に優秀な成績を収めた者、指導に特に貢献があったと認められる者に対して文部科学大臣が表彰を行い、その栄誉を讃えることを目的とする（2022年タシケント世界選手権大会）。